

社 会 科

岡田 哲典

金田 哲也

水橋 長之

共同研究者 加藤 隆弘（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

社会科の目標として、次期学習指導要領では次のように記載されている。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

昨年度までの研究である「持続可能な開発のための教育（ESD）」においては、今日的課題としての防災やエネルギー問題、環境問題などが注目される現代社会において、教科を通して取り組んでいくことが、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことにつながると考え、実践を重ねてきた。今年度からの研究である「伝統文化教育」においては、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めるだけでなく、自分たちとは異なる外国の文化に対しても理解を深めることによって、公民としての基礎的教養を培うことにつながる。ひいては、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する部分につながっていくと考えている。

世界に目を向けると、グローバル化に伴う諸問題も見られるようになってきた。国家間、地域間での経済的不均衡やそれによる人々の不満、移民などによる外国人の増加とそれによる国内での対立などが挙げられるだろう。それらがテロにつながり、地域の不安定化につながっているケースもみられる。このような国際社会の状況において、日本人はどのように平和で民主的な国家・社会を築いていくのかという、答えのない問いを見つけ出す手がかりのひとつが、伝統文化教育ではないかと考えている。

グローバル化とは、ただ単に海外や世界のことを知ろうとすることだけではない。世界の歴史や文化を学ぶことによって世界を見る目を養い、それを基にして自身の生まれ育った背景にある歴史や文化にも改めて目を向けられるようになることではないだろうか。また、日本の歴史や文化を学ぶことを通して、それらが貴重で尊い価値あるものと認識できることによって、世界の歴史や文化も貴重で尊い価値あるものと認識できるのではないか、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する上で必要になる視点が、伝統文化教育であると考え、研究を進めていく。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) グローバル人材の育成について

平成24年6月4日に、グローバル人材育成推進会議から出された審議まとめでは、育成・活用していくべきグローバル人材の概念を次の三つに整理している。

要素Ⅰ 語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ 主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感

要素Ⅲ 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

また，グローバル人材育成推進会議から出された審議まとめの，その他関連する重要課題についての部分においても，日本語・日本文化の世界的な普及・展開が提言されている。そこで社会科では3要素のうち，社会科と特に関連性が強いと思われる要素Ⅱと要素Ⅲに着目し，次のように実践を行ってきた。

まず要素Ⅱの育成に向けては，ペア学習や4人程度でのグループ活動を多く実施してきた。少人数のグループ活動は，比較的発言の機会を多く持ちやすく，相互に意見を出しやすく質問もしやすいことから対話的な学びにもつながるなど多くのメリットが挙げられる。誰かが発言しないことには，学びが深まらないという一面もあり，生徒同士の関係性の中で学ぶことで要素Ⅱのなかでも特に主体性・積極性の育成に有効であり，主体的な学び，対話的な学びにもつながるのではないかと考えられる。また，複数で行うことから，グループ内のメンバーに説明する，グループ内のメンバーと議論するといったことで，自身の中で整理し，深い学びに迫ることができると考えられる。

次に要素Ⅲの育成に向けて，次のように考えた。異文化に対する理解の部分において，おもに地理的分野の1年での学習内容（世界のさまざまな地域）で学んでいくことができる。また，日本人としてのアイデンティティの部分においては，歴史的分野での学習で学んでいくことができるだけでなく，地理的分野の1年での学習内容（世界のさまざまな地域）において異文化に対する理解を学んだ土台の上に，2年での学習内容（日本のさまざまな地域）で学んでいくことができる。

グローバル化への対応に関しては，平成28年8月26日に出された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」のなかで，「日本人として大切にしてきた文化を積極的に享受し，我が国の伝統や文化を語り継承していけるようにすること，様々な国や地域について学ぶことを通じて，文化や考え方の多様性を理解し，多様な人々と共同していくことができるようにすることなどが重要である」と明記されている。社会科の学習全てが，最終的にはこのことにつながっていくものであり，資質・能力の育成に当たって社会科が主要な役割を果たす部分も大きいのではないかと考える。

（2）関連・連携の考えられる教科等について

昨年度まで3年間にわたって進めてきたESDの研究では，他教科との連携（教科の「つながり」）によって，さまざまな方向，多くの視点から事象をとらえ，さらなる理解につなげようとする試みを行うことができた。

今年度からの研究である「伝統文化教育」においても，前述のとおり，伝統文化教育の目指すものが次期学習指導要領に示された社会科の目標である，「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」と関係が深く，社会科が多くの情報や実践を発信していくことによって，他教科からみた連携が図りやすくなるのではないかと考えている。更には，教科を越えて深い学びを実現することにもつながると考えている。現段階で考えられるものとしては，次のようなものがある。

①世界各地の人々の生活と環境（地理的分野）における実践

さまざまな気候帯の地域があり、それぞれの地域の自然環境に応じて、独自の伝統的な生活を持った人々が住んでいる。特に衣食住を扱う分野でもあることから、技術家庭科（家庭分野）との連携が考えられる。また自然環境においては、理科との連携も考えられる。

②世界から見た日本の姿（地理的分野）における実践

日本の地形の特色として山が多い、火山活動が活発である、地震が多いといったことが挙げられる。また気候の特色としては高温多湿である。なぜこのような自然環境がみられるのかというアプローチから理科との連携が考えられる。更には、このような自然環境下にある日本人が、どのように工夫を重ね生活してきたのかといった社会的事象から、理科の気象や大地の動きに迫る手法も考えられる。

そのほか、世界から見た日本の資源、エネルギーと産業といった方向から、理科や技術家庭科（技術分野）との連携も考えられる。

③日本の諸地域（地理的分野）における実践

日本各地の特色を、地域ごとに学んでいく部分である。京都、奈良など近畿地方へ修学旅行に行くことから、日本各地のことを学んだうえで、数ある日本のそれぞれに魅力的な地域の中から、なぜ近畿地方に修学旅行に行くのかといった考察を通じて、学活や総合的な学習の時間（修学旅行の事前・事後指導として）との連携が考えられる。

④身近な地域の調査（地理的分野）における実践

自分たちの住む地域を調査し、理解し、未来への提言を行う活動を通して、どのように成果を発信するかによってさまざまな教科との連携が考えられる。例えば外国に発信しようと思えば英語科と、国内に言語化して発信しようと思えば国語科と、視覚に訴える形で発信しようと思えば美術科や技術家庭科（技術分野）との連携が考えられる。また、自分たちの地域の生活文化を発信しようと思えば、技術家庭科（家庭分野）との連携が考えられる。

⑤文化史に関わる単元（歴史的分野）における実践

古代では寺院建築や仏像などの美術品が登場することから、美術科との連携が考えられる。また、建築物や美術品が美しく見えるのはなぜかといったアプローチから、数学科との連携も考えられるのではないかと思われる。「枕草子」や「平家物語」、「おくのほそ道」といった歴史上の文学作品は国語科でも扱うことから、国語科との連携も考えられる。ESDの研究では、能に関連して音楽科と国語科の連携がみられたが、ここに社会科も連携していくことができる。またこうした日本の文化は、外国の人々から見ても興味深いものであることから、どのように英語で発信するかという視点で英語科との連携も考えられる。

⑥現代社会と私たちの生活（公民的分野）における実践

この単元では、伝統文化そのものを扱っている。その内容は、暮らしに生きる伝統文化として、衣食住や年中行事などのいわゆる生活文化を扱っている。このことは、生活文化を伝統文化という視点

で扱うことにより、生徒自身の日常生活の中に深く伝統文化が根付いていること、そして生徒自身が文化の継承や創造の担い手であるとの自覚を促すことにつながると考えている。

また、金沢の伝統芸能である「能」や「素囃子」を扱い、上述⑤の歴史的分野同様に国語科や音楽科との連携を図り、理解の深まりを考えた。

⑦現代の民主政治と社会（公民的分野）における実践

政治や行政のはたらきによって、伝統文化の振興につながっていることがある。石川県においても、日本酒（いしかわの酒）での乾杯を推進する条例を制定している。地元産の材料を用いたものづくりや食文化というアプローチから技術家庭科との連携が、建築物の高さを規制する景観条例に関して規制される高さの根拠はどこにあるのかというアプローチから、数学科との連携が考えられる。

3. 成果と課題

(1)教科横断的な視点から

現行学習指導要領の成果と課題として、「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であること」が指摘されている。本校では昨年度までの研究である「持続可能な開発のための教育（ESD）」において、各教科等を軸として、教科横断的に実践を重ねてきた経緯がある。そして社会科は、「(2) 関連・連携の考えられる教科等について」の部分でも述べたとおり、他教科等との連携を図りやすいという面がある。これらのことから、引き続き教科横断的な実践を行う上での中心的な役割や、教科等の間をつなぐハブとしての役割が期待できると考えている。

例えば、本校研究部で12月に実施した生徒アンケートにおいて、「日本の伝統や文化について、外国の人に日本語でわかりやすく説明できる」という問いにおける自由記述欄で、説明できる具体的な内容を書かせたところ、能や歌舞伎について書かれたものが多くみられた。これは各教科等の年間指導計画から、社会科(歴史的分野)における授業実践の中から出てきたものではなく、音楽科における授業実践の中から出てきたものと考えられる。しかし能や歌舞伎は社会科でも扱うほか、国語科でも扱う。こうした相互作用により更に理解を深めたり、生じた疑問を他教科からの視点で解決しようとしたりする態度を育てることにつながっていくのではないかと考えられる。

社会科において伝統や文化に関する教育を行うことは、何ら特別なことではなく、以前からの学習指導要領通りのことでもある。だからこそ、他教科等との連携を深めていくため、社会科や他教科等における教育的効果を高めるために、どのようなことが求められるのかを模索していきたいと考えている。

(2)社会科としての視点から

本校研究部のアンケートにおいて、「日本の伝統や文化について、外国の人に日本語でわかりやすく説明できる」と答えた生徒は、4月の32%から12月の39%へと変化した（「そう思う」と、「どちらかというと思う」の合計）。具体的にどのようなことを説明できるのか、生徒の自由記述欄から社会科の授業実践と関連性が深いと考えられるものとして、次のものが挙げられる。

- ・社会科で習ってきた祭り
- ・どのような伝統的工芸品があるのか
- ・身近な地域のこと（歴史も含む）
- ・いつ頃から歴史的文化が生まれ、その特徴は何か
- ・日本は、江戸時代から特定の国としか交流しておらず、独自の文化が開花したこと
- ・金沢の伝統ある名所について … 総合的な学習の時間(2年の金沢探索)との関連性も考えられる

上記のほか、「学んだものについてはできるが、全然知らないようなものについては少し難しいと思う」といった内容の回答も多くみられた。

また、「日本の伝統や文化は世界に誇れるものだと思う」、「日本の文化を大切にし、将来も残していくべきだと思う」との問いには、90%以上の生徒が「そう思う」、「どちらかというと思う」と肯定的な回答をしているほか、「日本の伝統や文化に関する学習に興味・関心がある」との問いに対しても、70%前後の生徒が肯定的な回答をしている。これらのことから、意欲はあるが知識がない、若しくは不足しているという実感があるのではないかと考えられる。この本校生徒の現状を踏まえ、まずは伝統や文化に対する理解を更に深めさせていくことが求められるだろう。

しかし、本校研究主題の副題、「一グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指して一」が示すとおり、伝統や文化に関する知識や理解を深めていくことだけが目的ではない。生徒アンケートのコメントには、次のようなものもあった。

「日本の伝統や文化は、世界に誇れるものだと思う」

- ・日本の伝統は知っているが、海外の伝統などを知らないで、日本がすごいのかわからない。
- ・（日本に限らず）どの国の文化も大切。悪いものはないと思いたいが、実際には地域紛争なども起きているから、何とも言えない感がある。

「日本の文化を大切にし、将来も残していくべきだと思う」

- ・世界の国々の人々と交流するとき、互いの文化を理解し尊重することでより関係を深められると思うので、国際的な文化の交流のきっかけになるから。
- ・日本の個性がなくなる。どの国も同じようになってしまい、多様性がなく、おもしろくないから。

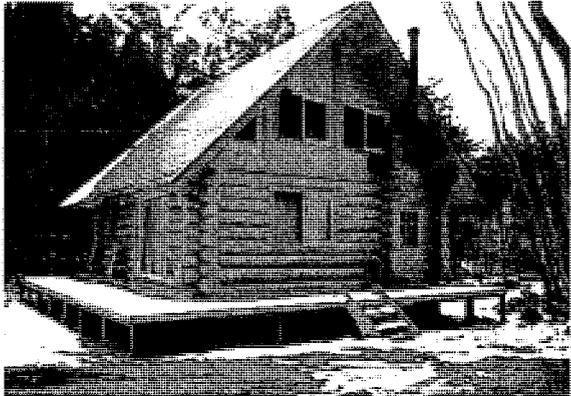
「外国の伝統や文化について、興味がある」

- ・外国の伝統文化を知らないと、日本と比較できないから。
- ・外国の人々の考え方や、どのような生活を送っているか。日本との違いを知りたい。
- ・己を知ってもらうには、相手の考え方や価値観を知るのも大切だと思うから。

上記のような生徒の思いをどのように生徒間に広げ、深めていくのか。知識・理解にとどまらない資質・能力をどのように明らかにしていくのかが、次年度の実践に向けた大きな課題となるだろう。

実践事例

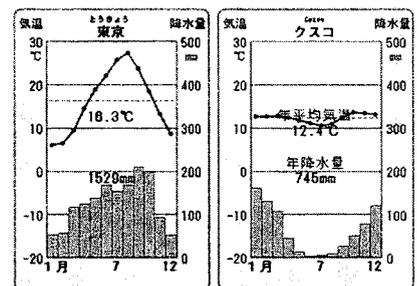
社会科1年

授業者 岡田 哲典		授業日 5月17日(水) 1限～4限
授業クラス, 教科等名	1年 1組 ～ 4組	関係・連携の考えられる教科等 技術家庭科
扱う伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化 伝統文化 地域文化 現代の日本文化 	授業内容 ・世界の伝統的な住居の写真を読み取り, どのような自然環境の中でどのような工夫によって生活しているのか追及していく。
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ	要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神 協調性・柔軟性、責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ	教科等で身に付けたい力 (本時について) (1) イ 「世界各地の人々の生活と環境」 ・世界各地の人々の生活の様子を, 衣食住から自然及び社会的条件と関連付けて, 追及していく。
授業のポイント・流れ 熱帯の住居を見せて, どんな気候だと推測できるか問う。 課題として「写真から, 各気候帯の特徴を読み取ろう」と提示。 1：写真に写る「植物」「家の素材」「屋根」の3点に着目して冷帯・熱帯・高山気候の住居の写真を比較し, なぜその特徴がみられるのか話し合い, グループでそれぞれがどのような気候の地域かを考える。		
		
2：その他の気候帯での住居の写真も提示して, グループで読み取りをおこなう。 3：クラスで共有する。		

実践事例

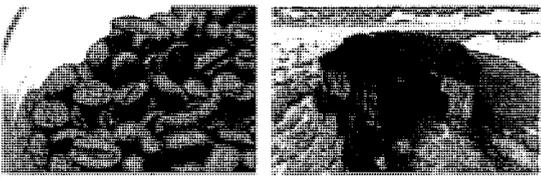
社会科 1年

授業者 岡田 哲典		授業日 5月26日(金) 6限
授業クラス, 教科等名	1年 1組	関係・連携の考えられる教科等 技術家庭科, 理科, 数学, 国語
扱う伝統文化	授業内容	
<ul style="list-style-type: none"> 生活文化 伝統文化 地域文化 現代の日本文化 	<p>高山気候の自然環境を理解し, そこで暮らす人々の生活を, 農牧業を通して理解する。</p>	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ	教科等で身に付けたい力(本時について)	
<p>要素Ⅰ: 語学力・コミュニケーション能力</p> <p>要素Ⅱ: 主体性・積極性、チャレンジ精神 協調性・柔軟性、責任感・使命感</p> <p>要素Ⅲ: 異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティー</p>	<p>(1) イ 「世界各地の人々の生活と環境」</p> <ul style="list-style-type: none"> 高地の自然環境とそこに暮らす人々の生活の工夫を, 農牧業を通して理解し, その知識を身につけている。 高地で暮らす利点について, 雨温図や地図, 写真などの資料からわかることを元に話し合うことを通して, 人々の伝統的な生活の工夫を知り, 文化や考え方の多様性を理解する 	
授業のポイント・流れ		
<ol style="list-style-type: none"> 高地の都市や人々の写真・斜面にある住居の写真から高地であることを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> 地図帳から都市の標高を調べる。 古代から人々が住んでいたことにも触れる。 本時の課題をつかむ。「課題: なぜこのような高地に人々が暮らせるのだろう」 高山気候の特徴をとらえる <ul style="list-style-type: none"> 雨温図と地図から, 低緯度(赤道に近い緯度)であるにもかかわらず平均気温が低いことをつかむ。 伝統的な住居と服装から高い木が生えないこと, 風が強いこと, 日較差が大きいなどの特徴をつかむ。 標高と土地利用の工夫を理解し説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 土地利用の資料から, なぜこのような土地利用ができるのか考える。 標高と斜面を利用して, さまざまな種類の農産物を生産できることを理解する。 道路などの変化と観光客の増加をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> マチュ・ピチュやチチカカ湖の写真を見て観光が盛んになってきていることをつかむ。 グループで話し合い, 本時の課題を解決する。 		



実践事例

社会科 1 年

授業者 岡田 哲典		授業日 11 月 23日(木) 2 限									
授業クラス, 教科等名	1 年 1 組	関係・連携の考えられる教科等 技術家庭科, 理科									
扱う伝統文化	授業内容										
<ul style="list-style-type: none"> 生活文化 伝統文化 地域文化 現代の日本文化 	<p>自然環境や文化, 産業についてコーヒー豆を切り口にICTを活用して概観し, 「南アメリカでなぜサトウキビや大豆の生産が拡大しているのか」を本単元の課題として共有する。</p>										
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ	要素Ⅰ: 語学力・コミュニケーション能力	教科等で身に付けたい力(本時について)									
	要素Ⅱ: 主体性・積極性, チャレンジ精神 協調性・柔軟性, 責任感・使命感	(1) ウ (オ)「南アメリカ」									
	要素Ⅲ: 異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> 南北に長い大陸の自然環境とそこに暮らす人々の生活と農業を通し, 地域的特色をつかむこと。 コーヒー豆という近現代からの伝統的農産物から自然的条件と社会的条件に関する資料を読み取り, その情報から関連付ける力。 									
授業のポイント・流れ											
1. 南アメリカのイメージを共有する											
2. 課題をつかむ	MQ: なぜブラジルではコーヒー豆の生産が盛んなのか										
3. 自然環境を捉える	<p>Q: コーヒーの栽培に適しているのはどのような地域か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒー豆輸出の国別割合のグラフを提示する。 ・南アメリカの北東部が熱帯であり, 雨季と乾季があることなどの自然環境を捉えるため, コーヒーノキの栽培条件と降水量・雨温図を提示する。 										
	<p>コーヒーの栽培条件</p> <table border="1"> <tr> <td>降水量</td> <td>年間1800mm～2500mm。ただし成長期に雨が長く、収穫期に乾燥している、つまり雨季と乾季があるという環境が必須。</td> </tr> <tr> <td>日光</td> <td>日当たりが強すぎると元気がなくなってしまう。直射日光が当たらないように、山の東側の緩やかな斜面などが適している。</td> </tr> <tr> <td>気温</td> <td>年平均20℃程度。朝夜の日中の温度差が大きくなることで品質が良くなる。一日の中での温度変化が重要。</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>溶岩や火山灰が風化した土壌が適している。土壌が肥えていて、水はけが良いところ。</td> </tr> </table>			降水量	年間1800mm～2500mm。ただし成長期に雨が長く、収穫期に乾燥している、つまり雨季と乾季があるという環境が必須。	日光	日当たりが強すぎると元気がなくなってしまう。直射日光が当たらないように、山の東側の緩やかな斜面などが適している。	気温	年平均20℃程度。朝夜の日中の温度差が大きくなることで品質が良くなる。一日の中での温度変化が重要。	土地	溶岩や火山灰が風化した土壌が適している。土壌が肥えていて、水はけが良いところ。
降水量	年間1800mm～2500mm。ただし成長期に雨が長く、収穫期に乾燥している、つまり雨季と乾季があるという環境が必須。										
日光	日当たりが強すぎると元気がなくなってしまう。直射日光が当たらないように、山の東側の緩やかな斜面などが適している。										
気温	年平均20℃程度。朝夜の日中の温度差が大きくなることで品質が良くなる。一日の中での温度変化が重要。										
土地	溶岩や火山灰が風化した土壌が適している。土壌が肥えていて、水はけが良いところ。										
4. 混じり合う人々と文化を捉える	<p>Q: なぜ南アメリカでコーヒー豆の栽培が盛んなのか</p> <p>Q: 南アメリカの人種の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカの多様な人種を捉えさせるために南アメリカの人種構成を提示する 										
5. 南アメリカの農業	<p>Q: 南アメリカで盛んな産業はコーヒー豆以外に何があるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのほかの農産物や鉱産資源を産出していることを捉えさせるために農業地域の分布図を提示する。また単元のテーマへ繋げるため, 大豆やサトウキビの生産が拡大していることを強調する。 <p>単元テーマ(例): なぜブラジルは大豆・サトウキビの生産に転換したのか。</p>										
6. 本時のまとめ	<p>ヨーロッパの移民がコーヒー豆の栽培をはじめ, 赤道に近いが高地であり, 雨季と乾季があることによってコーヒー豆の栽培に適していたから。</p>										

実践事例

社会科 2年

授業者 金田 哲也	授業日 5 月 15 日 (月) 1, 2, 5, 6限	
授業クラス, 教科等名	2年社会(歴史的分野) 1限4組 2限3組 5限2組 6限1組	関係・連携の考えられる教科等 国語(平家物語)、美術(絵画、建築)、 英語(天草版の平家物語)、 音楽(三味線、三線、浄瑠璃)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・ 伝統文化 ・ 地域文化 ・現代の日本文化	授業内容 これまで学習してきた文化と比較して、桃山文化に関するものが多く現代に残っていることに気づき、なぜ残っているのかということについて考察する	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性、 チャレンジ精神 協調性・柔軟性、 責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力(本時について) ・具体的な事例、対象から、桃山文化の特色を読み取り、理解し、説明できる力の育成 ・伝統文化の保存に対する関心や意欲	
授業のポイント・流れ <p>以前にも「〇〇文化」というものの学習はしてきたが、それらと比較して本時は特に、生徒にとって、見聞きしたことのあるものやなじみのあるもの、イメージをつかみやすいものが多い(城郭建築、茶道、かぶき(踊り)、パン、カステラなど)</p> <p>課題 信長や秀吉の頃の文化が、現代にも多く残るのはなぜだろう？</p> <p>(1) 桃山文化の特色をつかむ ← 過去に学習した、文化史の法則で理解できる 【文化史の法則】 ・時代の中心人物が好きそうなものがはやる …… A ・時代の雰囲気文化に現れる …………… B</p> <p>→ Aからは、信長や秀吉の好きそうな派手なものが桃山文化の特色ではないか、 Bからは、戦国時代の雰囲気のほか、南蛮、キリスト教の影響などが考えられる</p> <p>(2) 桃山文化の具体例を調べる + 現代にもあると思うか、思わないかに分類する → これまでに学習してきた「〇〇文化」と比較して、より多くのもが現代に伝わり、残っているということに気づくことができる</p> <p>(3) 安土城に関連して、「安土城を見てきました」のコーナー(スライド) 史跡の保存、維持管理といった視点に着目したい</p> <p>(4) 課題に対する答えを考える</p>		

実践事例

社会科 2 年

授業者 金田 哲也	授業日 5月 26日(金) 6限	
授業クラス, 教科等名	2年 1組 社会 (地理的分野)	関係・連携の考えられる教科等 理科(日本の気候)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・伝統文化 ・地域文化 ・現代の日本文化	授業内容 ・日本各地の雨温図をもとに気候を読み取り、読み取った気候からどのような伝統的生活(食文化や住居など)があると考えられるかを予想、考察する。	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ： 主体性・積極性、チャレンジ精神 協調性・柔軟性、 責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力(本時について) ・雨温図からその地域の気候を読み取るだけでなく、食文化や住居など伝統的生活を、根拠を明確にしながら予想する力。	
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>(1)1年の復習 気候と生活が関連している例を発表する (例) 氷雪に覆われた地域 … 農業ができない 狩猟などの伝統的生活 夏の日差しの強い地域 … 小さい窓、白い石造りの家 標高の高い地域 … 標高差を生かした、多様な農作物の栽培 など</p> <p>(2)課題の提示 課題 日本各地の気候と、伝統的な生活が関連する例として、どのようなものがあるか</p> <p>(3)日本各地の気候や、予想される生活について、雨温図をもとに読み取り発表する 「金沢と違って、〇〇(都市名)は～だ」の形 ↓ 「〇〇(都市名)は、～な気候の特色が見られるので△△である(と思う)」 ・高松は降水量が少ない … 小麦の生産 → 讃岐うどん ・金沢は降水量が多い …… 「弁当忘れても傘忘れるな」の言葉 ・那覇は台風がよく来る … 台風の被害を減らす平屋建ての家</p> <p>(4)まとめ 石川県の食文化、かぶら寿司を例に 伝統的な生活は、その地域の気候とも深い関連がある 日本の諸地域で、九州地方から順に学んでいくときも意識していきたい視点</p>		

実践事例

社会科 2年

授業者 金田 哲也	授業日 6月27日(火) 2,3限	
授業クラス, 教科等名	2年社会(地理的分野) 2限1組 3限2組 6/29 1限3組 3限4組	関係・連携の考えられる教科等 英語(金沢の魅力) ↑ 社会(世界から見た日本の気候)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・ 伝統文化 ・ 地域文化 ・現代の日本文化	授業内容 日本の第三次産業(商業、サービス業)の特色を理解する。近年の商業の変化に関連して、郊外型の大型店に押される古くからの商店街の取り組みを、気候を背景とする伝統や文化と関連させながら行うことを試みる。	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ： 主体性・積極性 、チャレンジ精神 協調性・柔軟性 、責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力(本時について) ・近年の第三次産業における変化を理解し、説明することができる。 ・商店街の変化や取り組みと、その背景にある歴史的なものや地元の気候などの風土との関連を考察できる。	
授業のポイント・流れ ※最初の5～10分程度は、前回(日本の工業)のまとめを行います 課題 日本の第三次産業には、どのような特色があるのだろうか？ (1) 第一次産業、第二次産業、第三次産業についての説明 ← 本時で初めて出る用語 (2) 日本の商業と、近年の変化について ・卸売業と小売業に分けられる ・小売業の変化が、近年は特に大きい インターネットとの融合…ダウンロード販売、ネット通販など アメリカ合衆国に見られる大型スーパーの出現 → <u>地元商店街の衰退 + 活性化に向けた取り組み</u> 授業開始後 30～35分あたり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> この部分に関連して、パワーポイントを使います。寺院(東別院)の門前町という立地と商店街形成の関連、かつて存在したが撤去されたアーケードと、金沢の気候と、商店街の取り組みとの関連から、商業における伝統的なものとその変化についての考察を試みます。(要素Ⅱに関わるポイント) </div> (3) 日本のサービス業について 新しいサービス業としての福祉分野や、インターネット関連		



実践事例

社会科 2年

授業者	金田 哲也	授業日	11月14日(火) 1, 3限
授業クラス, 教科等名	2年社会(地理的分野) 11月7日 4限1組 5限2組 11月14日 1限3組 3限4組	関係・連携の考えられる教科等	技術(揚げ浜塩田による塩づくり)
扱う伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化 伝統文化 地域文化 現代の日本文化 	授業内容	<p>東北地方の祭りや行事を扱う。どのような目的で行われているのかという課題から、観光面や地域振興面でのメリットだけでなく、世代間のつながりが持つ伝統が継承される、人々の願いが投影されているといったことに気づく。</p>
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ	<p>要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力</p> <p>要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神 協調性・柔軟性、責任感・使命感</p> <p>要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティ</p>	教科等で身に付けたい力(本時について)	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の祭りが持つメリットを、地域おこしの面から資料をもとに説明できる力。 東北地方に限らず、古くから受け継がれている祭りや行事が持っている意味を、地域の人々の生活に必要な行事という視点から説明できる力。
授業のポイント・流れ			
<p>課題 東北地方の行事にはどのような目的があるのだろうか？</p> <p>(1) 東北の夏祭りについて、地域おこしの視点から考える(個人で考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客が来る → 経済効果がある 地域がにぎわう 伝統が継承される 地域のPRになる、有名になる など <p>(2) 地域の人々の生活に必要な行事という視点から考える(グループで)</p> <p>(例) 秋田のなまはげ(国の重要無形民俗文化財)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>石川県の重要無形民俗文化財の例を、 パワーポイントで見せる</p> <ul style="list-style-type: none"> 能登のあまめはぎ 七尾の青柏祭 奥能登のあえのこと <p>ホワイトボードに書いて、黒板に貼って発表</p>			
<p>まとめ</p> <p>地域の行事や祭り … 人々の願いをこめる +</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>古くからの伝統的生活</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>気候や地形などの影響</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> <p>観光的なイベント 地域おこしの手段の一つ</p> </div> <p style="margin-left: 200px;">この側面が強くなって きている実態がある</p>			

実践事例

社会科 2年

授業者 金田 哲也	授業日 11月 23日 (木) 2限
-----------	--------------------

授業クラス, 教科等名	2年 4組	関係・連携の考えられる教科等 学活、総合的な学習の時間
-------------	-------	--------------------------------

扱う伝統文化	授業内容
<ul style="list-style-type: none"> 生活文化 地域文化 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化 現代の日本文化

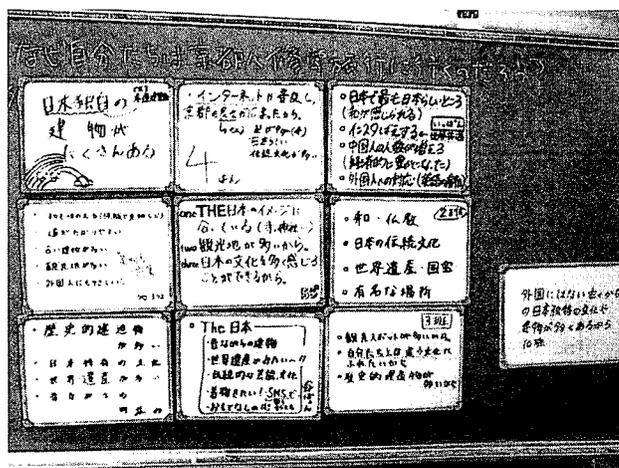
なぜ自分たちは京都に修学旅行に行くのかという問いから、自分たちから見た京都の魅力について考察するとともに、外国人から見た京都の魅力についても考察する。

特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ	教科等で身に付けたい力 (本時について)
<p>要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力</p> <p>要素Ⅱ：<u>主体性・積極性</u>、<u>チャレンジ精神</u> <u>協調性・柔軟性</u>、<u>責任感・使命感</u></p> <p>要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ</p>	<p>修学旅行生や外国人観光客から見た京都が持つ魅力について、歴史的背景から考察し、説明する力。</p>

授業のポイント・流れ (見て欲しい部分, 要素Ⅰ～Ⅲに関わるポイントなど)

課題 なぜ自分たちは、京都へ修学旅行に行くのだろう？

- 京都市内の地図を、インターネットで見る (導入)
 - 気になる場所をさらに詳しく見る → 関心を高める
 - 実際に見て回る場所を調べる際の、手法の一つでもある
- 京都市を訪れる観光客数の変化の資料から、修学旅行生数の変化について読み取る
 - 人数はそれほど減っていないことがわかる
 - 少子化なのに、それほど減らないことへの疑問
 - 参考として、中学3年生の人数の変遷に関する資料を示す
- 以前 (1990年代) も現在も、同じように多くの修学旅行生が京都を訪れているのはなぜだろう？
 - 個人で考察 → 発表
- 外国人宿泊者数が増えていることから、外国人観光客から見た京都の魅力とは何かを考察し、ホワイトボードに書いて発表する (グループ)
- 京都を訪れた外国人の感想を紹介し、個人で課題に対するまとめを書く



実践事例

社会科 3年

授業者 水橋 長之	授業日 6月 27日(火) 1限～ 4限																					
授業クラス, 教科等名 社会科 3年 1限3組 2限4組 3限1組 4限2組	関係・連携の考えられる教科等 国語, 家庭, 音楽 など																					
扱う伝統文化 ・生活文化 ・伝統文化 ・地域文化 ・現代の日本文化 ・教育における日本文化と世界文化	授業内容 私たちの生活の中に根付いている生活文化について理解を深め, 伝統文化の継承と保存を行うことの意義を理解する。																					
身に付けたい能力・態度など 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性, チャレンジ精神 協調性・柔軟性, 責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ	教科等との関連(本時について) ・衣食住や年中行事などの生活文化に関心を持ち, 意欲的に調べようとする態度を育成する。 ・文化の担い手である自覚を持ち, 文化の継承や創造に参画しようとする態度を育成する。																					
授業のポイント 「私たちの生活と文化」(1/2) 衣食住や年中行事などの生活文化を伝統文化としてとらえなおすことで, 伝統文化は, 日常生活に深く関わっていることであり, 文化の継承や創造の担い手である自覚を促したい。 <授業の流れ> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: right;">5分</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">～ 5分</td> <td>生活文化を想起する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">～ 25分</td> <td>生活文化を衣食住, 年中行事, その他に分類する。 (グループ活動)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">伝統文化とは, 人々に受け継がれてきた文化であり, 生活文化として根付いているものである。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">25分</td> <td style="text-align: center;">～ 30分</td> <td>継承された文化を想起する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">30分</td> <td style="text-align: center;">～ 45分</td> <td>金沢市の取り組みを知り, 取り組みの意義について考える。 (グループ活動)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">伝統芸能などは, 子ども塾などを開催し, 伝承・保存に向けた取り組みが行われており, 一人一人が参画しようとする意識が大切である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">45分</td> <td style="text-align: center;">～ 50分</td> <td>まとめと振り返り。</td> </tr> </table>		5分	～ 5分	生活文化を想起する。		～ 25分	生活文化を衣食住, 年中行事, その他に分類する。 (グループ活動)			伝統文化とは, 人々に受け継がれてきた文化であり, 生活文化として根付いているものである。	25分	～ 30分	継承された文化を想起する。	30分	～ 45分	金沢市の取り組みを知り, 取り組みの意義について考える。 (グループ活動)			伝統芸能などは, 子ども塾などを開催し, 伝承・保存に向けた取り組みが行われており, 一人一人が参画しようとする意識が大切である。	45分	～ 50分	まとめと振り返り。
5分	～ 5分	生活文化を想起する。																				
	～ 25分	生活文化を衣食住, 年中行事, その他に分類する。 (グループ活動)																				
		伝統文化とは, 人々に受け継がれてきた文化であり, 生活文化として根付いているものである。																				
25分	～ 30分	継承された文化を想起する。																				
30分	～ 45分	金沢市の取り組みを知り, 取り組みの意義について考える。 (グループ活動)																				
		伝統芸能などは, 子ども塾などを開催し, 伝承・保存に向けた取り組みが行われており, 一人一人が参画しようとする意識が大切である。																				
45分	～ 50分	まとめと振り返り。																				

実践事例

社会科 3 年

授業者 水橋 長之	授業日 6月 28日(水) 5限~ 6限 29日(木) 3限~ 4限
授業クラス, 教科等名 社会科 3年 5限2組 6限1組 3限3組 4限4組	関係・連携の考えられる教科等 国語, 音楽 など
扱う伝統文化 ・生活文化 ・地域文化 ・教育における日本文化と世界文化	授業内容 日本文化の地域的多様性について理解をするとともに, 金沢という地域に根ざした文化について理解を深め, 文化財保護の大切さについて考える。
身に付けたい能力・態度など 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性, チャレンジ精神 協同性・柔軟性, 責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ	教科等との関連(本時について) ・日本文化の地域的多様性について関心を持ち, 意欲的に調べようとする態度を育成する。 ・地域に根ざした文化について理解を深め, 伝統文化の継承と保存の意義について, 多面的・多角的に考察しようとしている。
授業のポイント 「私たちの生活と文化」(2/2) 日本文化の地域的多様性について, 地理的分野や歴史的分野での学習を踏まえ, 食文化や琉球文化, アイヌ文化について理解させたい。また, 地域に根ざした文化として, 「能」・「加賀万歳」について理解を深め, 文化の継承や創造, 文化財保護の意義について多面的・多角的に考察させたい。	
< 授業の流れ >	
5分 ~ 5分 5分 ~ 20分	前時の生活文化を確認する。 日本文化の地域的多様性を調べる。 (グループ活動)
	日本文化の地域的多様性としての食文化, 琉球文化, アイヌ文化。
20分 ~ 35分	地域に根ざした文化を確認する。
	金沢における加賀宝生流の伝統。 加賀万歳の伝統と発展。
35分 ~ 45分	文化財保護について金沢市の取り組みを知り, 取り組みの意義について考える。
45分 ~ 50分	まとめと振り返り。